



洋学文庫
文庫 8
B 103

首卷

冊一

杉田 恭卿

後卷

冊九

宇田川 榕菴

合譯

瘍醫方範

書肆

西說

瘍醫方範卷一

遠西

郁泄弗牙哥勃不冷吉 著

江戸

杉田 恭卿

譯

外科通治主能諸藥 第一

○外治藥劑總論 括ス

凡ソ造化、賜與スルモノ、主植、活物、金石、水土ヲ論セ
ス、總テ患處ニ敷貼シテ病ヲ治スルコトアル者ヲ外敷
藥ト名ク其用法并ニ功能ノ強弱ヲ熟考檢査

スルヲ瘍科藥劑、検査術ト名ク又製鍊家ニテ
コレヲ分チ称スレバ製劑功能検査術、合劑功能
検査術ト云フ又其検査術ヲ分テ總概ト云ヒ各
異ト云フ總概トハ諸藥ノ性ニ自己ノ殊性アル者
ヲ總概シテ齊ク功能ヲ鑒察スルヲ云ヒ各異トハ
諸藥各自特異ノ功能ヲ抱クヲ鑒察スルヲ云フ
○總テ外敷藥ノ用法ヲ考定セント欲サバ先ツ取
聆。詳密ニ各品ノ功能ヲ知ルベシ所謂功能ヲ知ルハ
其氣味ト製煉術トヲ以テス然レモ尚各品ニ就テ
實驗シ且ツ己ニ功能ノ明著ナル品ト比較シ考定

スベシ

蓋シ總概ノ功能ハ辨識シ易ケレモ各自特異ノ功能
ハ數回ノ試験ヲ歴ルニ非レバコレヲ知ルヲ難シ加之
明白ナラサル者多シ又従来諸家發明セルモ尚確
證ト為シ難シコレタビ一時ノ見ヲ以テ記スル者多キ
ガ故ナリ故ニ數回ノ經驗アル所ノ功能又ハ理ヲ辨
知シ精學直實ナル人ノ説ノミヲ信用スベシ
凡ソ外敷藥ノ疑體流體ニ滲透通徹シテ功績
ヲ奏スルニ五等ノ別アリ

○其一ハ皮膚ノ喨收管ヨリ全身ノ靜脈ニ通

達ス 凡ソ皮膚ニ敷過スル喩收管ヨリ藥性ヲ喩收シ
テ全身脉管中ニ達スルヲハタトヘバ發泡膏ヲ
貼シテ腎及膀胱ニ敷衝ヲ發シ或ハ尿血スルヲアリ又
水銀膏ヲ貼シテ吐涎ヲ任起シ又盧會丁幾去ルヲ
潰瘍ニ用テ下利ヲ發ス
等皆明白確然名徴ナリ

○其二ハ膏ニ静脈ノミナラス動脈モ亦中ニ血
液充滿セサル中ハヨク外敷藥ヲ喩收スルナリ
動脈ノ末梢閉塞シテ其羅兒龍度空虚ヲ為ス中ハ物ヲ
喩收スルノカヲ生ズルヲ、穴在理學ノ堅查ニヨツテ明ニ理
會スベシ○凡ソ動脈ノ末梢ニハ多クハ羅兒龍度アリ若
シ閉塞スルヲアル中ハ必ズ其羅兒龍度ノ始ル處ニ在リ
是ヲ以テ其閉塞セル血液静脈ニ循行セサルノ理ナリ
○穴在理學家ニテハ顯微鏡ヲ以テ熟視スルニ動脈ノ蒸
發氣孔ハ其羅兒龍度ノ先ヨリ起テ圓錐様ノ處ヨリ
ハ生セサルナリ○コレニ因テコレヲ見レハ空虚ナル蒸發氣孔
ハ外敷藥ヲ喩
收スルヲ明ナリ

○其三ハ外敷スルノコロノ藥劑皮膚ノ無用孔ヨ
リ脂膜ニ通ジ其塞兒ヲ通行シテ骨ニ至ルマ
テ透徹ス 凡ソ皮膚ハ喩收管蒸發氣孔ノ外ニ尚又

脂膜ノ塞兒ニ通スル一種ノ無用孔アリ其内空虚ナリ其無
用孔ヨリ外敷スル諸藥脂膜ノ空間ニ通リ小孔ヲ通行
シテ骨ニ透徹ス其證ハスベテ活物ノ肉上ニ塩或ハ砂糖
ヲ撒敷スレハ骨ニ至ルマテ赤色ニ変シテ甘味鹹味モ骨
ニ透透ス又肉ヲ醋ニ淹醃スレハ通肉盡ク酸味トナリ又
膏敗セス且ツ骨骸モ軟骨ノ如クニ柔軟ニナルナリ

○其四ハ外敷ノ藥劑温暖寒ノ二氣ニ由テ
骨ニ通徹ス 凡ソ温氣ハ骨ヲ過貫シ髓ニ達ス○名
譽ノ華母氏烙鐵ヲ暫時ノ間癩病ヲ
患フル少女ノ腦蓋骨ニ貼セシニ其温氣ハ骨ニ通徹シテ
腦殼衝ヲ發セリ○又凍死セル獸類ノ骨ヲ見ルニ其髓
モ亦冰凍セリコレ寒ノ氣温ニ氣
骨ニ達スルノ徴ナリ

○其五、神經ノ感動ニ依テ外敷ノ諸藥途ニ隔離セル部分ニ功績ヲ達ス

身體中何レノ部分ヲ論セス凡ソ外敷藥ヲ貼スレバ皮下ノ神經ニ滲透シ内部ハ勿論遠ク離隔セル部分ト雖モ連綿シテ一系ナルヲ以テ其感動ヲ其処ニ施キ及ぶス故ニ其藥力其処ニ通達スルト一般ノ功ヲナスナリタトヘハ冷水ニ陰囊ヲ懸セバ忽チ血ヲ閉止シ又冷水ヲ以テ足脚ヲ洗滌スレバ下利ヲ發シ其全芳香竅透ノ硬膏ヲ貼シテ嘔吐ヲ鎮止シ發泡膏ヲ貼シテ昏睡ヲ者覺シ或ハ發泡膏ヲ膠骨ノ上ニ貼シテ小便失禁ヲ治スル等甚々多シ

凡ソ諸藥ニ關係スル事仔ヲ容易ニ理會セント欲サハ先ツ左ノ諸條ヲ參考スベシ

○其一、諸藥天造賜ノマ、ニテ製ヲ加ヘズ用ル者アリ之ヲ生藥ト云フ又是ニ反シテ諸ノ製ヲ

歷テ用ル者アリ之ヲ製藥ト謂フ又藥局家諸般ノ法方ヲ以テ合和調勻シ用ル者アリ之ヲ合劑ト謂フコレ藥劑ノ第一大別ナリ一別ト謂フ○其二、藥品コレヲ數フルニ千萬ト雖モ其大較ヲ提レバ造化ニ富、他ナシ即チ生植活物金石是ナリ

○其三、千萬ノ藥品是ヲ大別スル中ハ彼ノ三富ニ過キスト雖モ各諸物ノ妙合シテ成トコロ、性異ナルニ從テ區別アリ所謂攬統効能各異功能ト稱スル者モ皆此性ニ區別ニ關係セザルハ無シ

其性、區別、各異、功能篇ニ説与スベシ」

○其四、諸藥其功能、異ナルニ從テ區別アリ
其區別ハ下ノ總概功能ノ目次ニ見ヘタリ

蓋シ諸般藥品生粗ナルモ精製セル者モ先ツ單
味、性能ヲ鑿察スベシ單味ノ性効一タビ發明スレ
バ乃チ各品ノ成矣セル性質自ラ明ナリ苟モ一タビ
其成體ノ質明ナレバ其績能自ラ明ナリ其績能
得テ了解スレバ其藥ノ強弱自ラ明ニ甲病ニハコレ
ヲ用テ果シテ効驗ヲ養シ乙症ニハコレヲ与ヘテ害アル
等ヲ知ル故ニ藥材ノ性効ヲ弁知スルノ學ハ外科

必ズ學ベキ諸學 中最も此學ヲ貴ブ其コレヲ學
習スルト學習セサルトニテ博洽碩學ノ瘍科ト
輕忽無稽ノ賣藥兒ト霄壤氷炭ノ別ヲ為ス
ニ」

藥品ノ功能ハ皆其中ニ含有スル所ノ諸物ノ性ニ
因ル故ニ其中ニ含有スル諸物ノ性ヲ檢査スルヲ
學ノ一大緊要トス然レモ各異ノ功能ハ其理ニ
達セル人ニ非レバ是ヲ知ルヲ難シ故ニ先ツ總概
ノ功能ヲ檢査スルコト肝要トス」
總概藥品ノ功用ハ左ニ掲擧ス」

○分藥劑目次

- 一 収斂藥品 アドモトリンゲンチア
- 二 強壯藥品 ロボランチア
- 三 止血藥品 スチアチカ
- 四 乾燥藥品 レツカンチア
- 五 緩和藥品 エモリオンチア
- 六 滋潤藥品 ヒュメタタンチア
- 七 包摂藥品 オブホルヘンチア
- 八 鎮痛藥品 アノテーナ
- 九 化膿藥品 シュワムランチア

- 十 聚液藥品 アットラヘンチア
- 十一 驅液藥品 レベルレンチア
- 十二 腐蝕藥品 コルロベンチア
- 十三 復良藥品 コルリゲンチア
- 十四 滌除藥品 テテルゲンチア
- 十五 愈創藥品 コニソリタンチア
- 十六 結痂藥品 シカトリサンチア
- 十七 温暖藥品 カレハミーンチア
- 十八 清涼藥品 レフリケニンチア
- 十九 融解藥品 レソルヘンチア

凡 奇異茶品

スベレヒカ

○收斂茶品第一

凡ソ人身固形質、纖維ヲ牽縮收斂スル効力アル諸茶品ヲ收斂茶品ト謂フ。故ニ強ク渋澁スル味アル諸茶ヲ此ニ屬ス即チ

淡簽品類

燒酒製、茶割

酸精質、茶割

金屬性、諸鹽

金屬性、土質

右等、諸茶ハ脉管諸膜其他諸部百器、衰弱弛緩ヨリ起ル諸病ニ効アリ。即チ眼目、鼻口、咽

喉。陰處等、纖維衰弱シタルヨリ起スル喉腫、初發、凶挫、脱臼、骨節婁窟、腔突、脱肛、腸、瀉、婁窟、劇膿瘍、稀水瘍、海綿瘍、蓄水瘍、
ニキ。アルチキエロリム。腺腫。鵝瘤。皮膚癩赤
及創瘻潰瘍、瘡後。表被薄弱等又動脈、
瀉、婁窟、静脈腫、鼻痔初發。
以上病名解并ニ見微
瘍醫新書ニ見たり
等、諸病ニ用テ効アリ。○我爾德兒。
人名内科撰
要ヲ著ス
ハ閉痲ニ收斂劑ヲ用テ効アリト云又或人ノ説ニ穀類食物、腐敗シタル者ヲ食ニ因テ起發セル処、乾壞疽ニ効アリト云

然レ凡收斂劑ハ劇症焮腫 結云纖維ノ衰弱ヨリ發セザル者 潰膿ヲ
欲スル処ノ腫瘍及腺腫善性ノ硬結腫内部ノ毒
ヲ排泄スル処ノ諸瘍并ニ皮膚層諸小瘡等ニ用レ
ハ害アリ

鼠李子 榕菴字氏新考ナリ

亞尔西密兒刺

安撰里納

柘榴花

拳參

黃鐘菜

木賊

玫瑰

礬石

鉛粉

蜜陀僧

鉛丹

鉛糖
冷水
赤葡萄酒

綠荖膽 荖甜荖
燒酒
石灰水

○強壯藥品第二

凡ソ身体各部ニ施シ收斂シ兼テ充張セシムル藥品
ヲ強壯劑ト名ク即チ

- 微瀉香胤藥品
- 微瀉苦味藥品
- 微瀉萃尔斯多質藥品
- 微瀉精氣多キ藥品

右等ノ藥品ハ凝體ノ諸器ノ衰弱及ヒ諸液ノ運動

怠慢ナル諸症ニ用テ効アリ

此劑前ノ收斂藥品ノ條ニ收斂スル處ノ諸症絶ヘテ

焮腫ヲ兼ナル者ニ用テ其効同シ 皆按ニ強壯ノ藥品ハ收斂劑ニ似テ充張スル効

ヲ夾ム故ニ焮腫アル者ニ施ハ却テコレヲ增長セシムレハナリ

收斂シ充張セシメント欲スル寒腫 熱ナキニハ此劑者ヲ云

ヲ專要トスルナリ

赤葡萄酒 玫瑰

消熱皮 冷水

燒酒 氷

桂

ホレイ 迷迭香

橄欖費亞 伊吹麝射香草

刺賢需刺 茱玉蘭

枸櫞草 榕菴氏譯名 歇意索彪蘇

老利兒

○止血藥品第三

凡ソ諸脉管ノ出血ハ四等ノ法ヲ以テ閉止スベシ即チ

第一ハ藥劑ヲ以テシ

第二ハ壓定術ヲ以テシ

第三ハ縫合術ヲ以テシ

第四烙鐵術ヲ以ス

所謂第一脈管ノ血ヲ閉上スル効績アル薬劑ニ四種アリ。第一ニ此諸薬ハ効アリ即

乾燥薬品

凝固薬品

收斂薬品

腐蝕薬品

所謂乾燥諸薬トハ石灰質ノ土類。乾綿撒系是ナリコレハ其効力甚カ緩微ニシテ瘡ニ細小ナル脈管ノ出血ヲ治スルニ特ニ綿撒系ハ細小ノ金劑常用ノ良劑トス。凝固薬品トハ綠膽石。砒石。純烈燒酒。金

属酸收精。等ヲ云ナリ此類ノ諸品ハ血ヲシテ肝臟ノ硬サニ凝固セシメ脈管口ヲ閉塞セシムルニ因テ前ノ乾燥諸品ヨリハ其効力勝レリトスルナリ

收斂薬品ハ強ク牽縮スル効力アル諸薬ナリ故ニ止血ノ効アリ然レモ瘡ニ中等ノ脈管ヨリ出血スル者ヲ閉止スルニニメ大脈管ヨリスル出血ハ治スルナシ

腐蝕薬品ハ金石酸收。酪狀安質没扭護。等ノ類ナリコレハ瘡ニ脈管ヲ強ク牽縮シ且血

液ヲ凝固セシムルニナラズ尚又尿管口ニ厚キ痂皮
 ヲ結ブナリ○然レモ其部潰爛シテ痂皮剥落ス
 ル中ハ復々管口ヨリ甚シキ出血ヲ起スルヲア
 リ或又其酷烈ナル藥劑創唇ニ裸露スル処ノ
 神經ニ侵入シ若ハ又其切断スル処ノ尿管口ヨ
 リ吸入スル中ハ甚ダ恐懼スベキ搦搦幸急ヲ
 發シ或ハ壞疽ニ變ジ或ハ内部ヲ侵蝕セシム
 ル等ノ害ヲ蜂起スルナリ故ニ醫此劑ヲ用ルニ充
 テハ細心スベシ

大尿管ノ出血ニ於テハ止血劑ノ最良ナル腐葉

ヨリハ手術ヲ施スヲ勝リトス即チ壓定縫合格
 鐵ニユリ

所謂壓定術ヲ又四等ニ分ツ即チ

其一嚼爛紙

其二折疊按定巾

其三重疊落葉松寄生或馬勃

其四止血旋帶

以上法方第二篇
ノ尾ニ洋ナリ

然レモ此術ハ身体諸部ノ出血ニ於テ尽ク施スヲ
 得ズ膏ニ壓定スベキ部ニモ用ルヲ得ルナリ

縫合術此ハ鍼ト糸トヲ以テ直ニ其創口ヲ縫フ

右等ノ手術ハ詳ニ後篇手術ノ章ニ説ク

烙鐵術此ハ烙鐵ヲ以テ直ニ動脈ヲ燒烙スルナリ
尚膏藥ヲ施スト一般ナリト雖モ瞬息ニ脈管ヲ
枯縮スルヲ異トスルニ然レモ近時ノ瘍科ハ咽喉
内等ノ出血ノ如キ止血ノ業割及壓定縫合術ヲ
施スト能ハガル部ニノ外ハ施ストナレ○名答言
コウラールトス名ノ説ニ壞血病ニ因テ咽喉ヨリ出
血スル者ニ烙鐵ヲ施スト容易ナラスト教諭セリ

落葉松寄生

金石酸精

アークワラツベルリイ

極烈燒酒

馬勃

綠膽諸蓉

蓉石

的列並底那油

油石灰

○乾燥藥品第四

蓋シ乾燥藥品ハ潰瘍ノ湿润ニ氣并ニ全身ノ湿
氣ヲ自己へ吸收スル効カアル藥品ノ謂ナリ
故ニ其乾燥セシムル藥品中ニ屬スル者ハ即チ
綿撒糸水綿。炭渣スル土曾品。穀類ノ麵粉
ナリ又收斂劑モ諸管ヲ牽縮シテ諸液ノ分離
ヲ壓止スルヲ以テ乾燥藥品ナリト知ルベシ然レモ

コレハ真ノ乾燥劑ニアラス

スヘテ乾燥諸品ハ過泄潰瘍。或ハ金刃創傷ヲ癒
スニ用フ○羅斯ニ麩粉ノ乾燥劑甚ダ効アリ
何者羅斯ヨリ蒸發スル酷厲液ヲ甚シク吸収
シ且ツコレニ因テ其蒸發スル液ヲ多ク催進スルヲ
以テナリ又蓄水腫ハ往々温砂ト炒リタル食塩ヲ
以テ熨シ治スルヲアルナリ

石脂

的尔刺西及児刺答

麒麟血

ケレイト
豊後土

紫鉚

綿撒絲

石灰水

骨灰

去佻亞

鉛糖

鉛丹

銀密陀僧

鉛粉

亞鉛英

砒石水

綠砒水

○緩和藥品第五

人身凝體ノ纖維ヲ弛緩セシタルノ効アル藥品ヲスヘ
テ緩和藥品ト云フ故ニ緩和藥品ハ纖維ノ聚結
強硬ヲ弛緩令ルヲ主リ諸部纖維ノ強直率
急乾燥スルヨリ發スル諸患即チ軟部ノ堅固

ニ変スル症或ハ「レキトール子」或ハ乾症眼焮腫及
 諸部ノ焮腫或ハ新固結或ハ軟帶筋脂膜ノ硬強
 等ニ用フ○痛々痔膿潰スベキ焮腫潰瘍○諸
 筋ノ牽急或ハ諸部ノ緊急靖云牙固或ハ諸般
 ノ瘻婁窟。腔突。脫肛等ノ孔ノ狹窄スルモノ膿
 熟スベキ腫瘍或ハ創傷ニ膿ヲ催進ス○又此
 割ニ因テ潰瘍ノ生肉ト腐肉トヲ分離ス」故ニ
 凝体諸部ノ衰弱弛緩ヨリ發ル處ノ諸患ニハ甚々
 害アリ即チ脫臼骨傷出腸瘻婁窟等ナリ○又
 酪屬液ニ因テ發ル焮腫即チ羅斯ノ如キハ此割ヲ

用テツ子ニ膿潰シ或ハ寒壞疽トナル又尋常ノ焮
 腫ハ此割ニ由テ增長シ膿瘍トナル○蒸發氣孔
 ノ弛緩及ヒ脂膜ノ衰弱ヨリ生ズル蓄水腫ニ此割
 ヲ施セバ弥々増進スルナリ而メ其滯留ノ液酪屬
 ナレバ動モスレバ其部ニ惡症ノ潰瘍ヲ生ス固結腫
 ニ此ヲ用フレバ多ク用癒トナル○痛風腫ニ此ヲ用レ
 ハ毎時侵蝕潰瘍ヲ起發ス
 蓋シ緩和和菜品ヲ食テ五種トス

- 水將水類
- 粘滑類
- 甘味油類
- 脂膏類

粉麩類

右ノ諸藥ハ温暖ニシ用フベシ又滋潤ナラシムベシ寒
冷ニシテ滋潤ナケレバ緩和ノ効ヲ為サレバナリ○
此五種ノ緩和劑ハ單味効用篇ニ於テ區別シ洋
載ス故ニ此ニタリ緩和性ノ諸藥ヲ雜奉ス

錦葵

遇尔託亞

弗爾拔斯究年

鵝蘭葛。烏爾西瀾

煉淨軟膏

脂膏

酪

乳汁

髓

榨油類

蒸餅心

亞麻子

胡蘆巴子

百合根

草零陵香花

接骨木花

弗爾拔斯究年花

○滋潤藥品

各体ニヨク滲透シ湿濡ナル効カアル諸品ヲ滋潤劑
ト名ク○眼目鼻口咽喉膈及其他ノ諸部乾燥スル
ル症ニ此劑ヲ用フ又創傷空氣ニ由テ乾燥スル
者ヲ滋潤シ新創ト為ント欲スル者ニコレヲ用フ
○乾緑痴アル潰瘍或ハ腱筋韌帶等ノ強硬

及ヒ乾燥シタル者ヲ滋潤ス又膿汁若ハ血ニ由テ
粘着セル繃縛ヲ太腕セント欲スルニ用フ○然
氏又滋潤薬ヲ用ヒテ良ナラサル羅斯。潰瘍。腫
瘍アリ

依ヒホカトテス加刺得私既ニ水漿類ヲ頭創ニ禁止セリ
水液ノ類ハ滋潤ノ効アリト雖モ滲透スルニ於テ
ハ素水ヲ最第一トス然レ氏素水ニ粉麩類
粘滑類油質類ヲ加フレバ久ク其効ヲ保ツナリ
譬バ皮膚草ハ温湯ニ侵セバ忽チ柔軟ニナルト
蚕モ乾クバ却テ前ヨリ硬韌トナリ油ヲ以テ滋

潤スレバ其柔軟ノカヲ保ツト永久ナリ故ニ粘液
ハ素水ヨリ滋潤ノ効勝レリトス

微温湯

乳汁

麩糊

粘滑生植煮汁

搾油類

楳棹核粘汁

蚕草子粘汁

亞刺比亞蘘護

○包撰藥品第七

凡ソ各処鯨肉上ニ薄皮ヲ被ラシタルノ劑ヲ包撰
藥品ト名ク

發飽膏火燒凍傷等ニ因テ表皮ヲ剥脱シタル

モノ或ハ唇乳房破傷及其他ノ新破裂或ハ剥皮
傷剥皮瘍乾症眼放腫等ニ於テ其部ヲ被包
シ兼テ薄皮ヲ作り軟和セシメトスル者ニ用フ
酷厲ナラスシテ適宜ニ稀稠ナル軟和スル油類及
脂膏類粘液ヲ包摂藥品ト云

搨持枝粘汁

蚤草子粘汁

巴且杏油

亞麻油

雞卵油

乳汁

雞子白

亞刺比亞趨漢

阿没勒核

○鎮痛藥品第八

總テ疼痛ヲ除キ或ハ暫時鎮止スル藥品ヲ鎮
痛藥品ト名ク

蓋シ疼痛ハ神經ヲ刺戟スル事物アルニ因リ或ハ
神ノ牽急スルニ由テ發スルナリ故ニ其刺戟スル
者ト牽急スル物トヲ除スル藥品ヲ鎮痛トス
然レモ疼痛ノ原因ヲ取除クニ能ハサレバ乃チ神
經ノ牽急ヲ弛緩シ酷厲毒ヲ包摂シ神經ヲ
蝕断シ神經及ヒ腦ノ知覺ヲ暫時麻痺セシ
ムルヲ要ス

鎮痛藥品ヲ五種ニ區別ス

○其一 酷厲毒ヲ制伏スル奇薬ナリ假令バ水銀劑ハ徵毒ヨリ起ル痛ヲ止メ潰瘍ヲ水漿類ニテ洗滌シテ其酷厲毒ヲ除去スルガ如シ

○其二 神經ノ牽息ヲ弛緩セシムル効アル薬劑ナリ則油類脂膏温湯乳汁等ノ如シ

○其三 酷厲毒ヲ包摂スル劑ナリ即チ粘稠油類等ナリ

○其四 神經ヲ消滅スルノ諸法ナリ即チ神經ヲ切断シ或ハ壓定シ或ハ縛結シ或ハ燒烙シ或ハ

腐蝕ス如此スレハ神經ヲ消滅スルヲ以テ疼痛ヲ知覺スルヲナシ

○其五 神經ヲ麻痺令ルノ劑ナリ阿芙蓉最モ勝レリトス○凡ソ麻痺薬ノ知覺ヲ奪ハ内服スレバ適宜ナリ然レモ此ヲ外敷シテモ亦其効アリ洋ニ單味効能篇阿芙蓉ノ條ニ載ス○但シ麻痺ニ外用シテ奇効アル鎮痛劑アリ此諸病ニ於テ必其効スルニハアラス即チ鉛製劑亜鉛製ノ諸薬ナリ此劑亦逐一ニ單味効能篇ニ説明ス○凡ソ鎮痛ノ藥品ハ即チ

弗爾拔斯究謨

接骨木花

歇乙鵠西亞繆私

聖西栗殼

芥葉鉤吻

雜腹菌

竜葵

密陀僧醋

苣荬菜

蔓陀羅薺刺

○化膿藥品第九

夫レ膿ハ自能良能ノ一賜ニシテ人身各部ニ之ヲ醸熟セシムヘキノ薬劑ナレ故ニ今其ヲ釀化ヲ催進スル藥品ヲ諺ニ化膿藥品ト名クルナリ
蓋シ膿ハ脂膜ノ塞^{セル}兒ニ激衝セル諸尿管ヨリ溢

出スル液ノ一変メ黄色ヲ帯ヒテ粘稠臭吐ナキ流動物ナリ

諸尿管ヲ弛緩シ諸液ノ流レ聚ルヲ促シ其液ノ變化ヲ進ムル藥品即チ膿ヲ催進スルナリ即チ

○其一ハ諸緩和セシムル劑即チ水漿類油類脂膏類ナリ此劑放腫ニ因テ破裂セシト欲スル尿管ヲ弛緩スルニ因テ其破裂ヲ速ニス故ニ其部ニ多ク液ヲ聚會スルナリ○此藥品ハ皆温暖滋潤アラシムヲ要ス

○其二ハ刺戟シ辛辣ナル藥品ナリ此ハ脂肪中ニア

ル諸管ヨリ諸液ノ流輸ヲ催進スコレニ因テ其膿溢流
及ヒ焮熱ヲ增長ス

○其三 之二屬スルハ一二格異ノ薬品ナリ即蜂蜜
蒸餅母ナリ此レ恐クハ多ク沸騰ヲ以テ溢出スル諸
液ノ变化ヲ催進スル者ナルベシ

此ヲ以テ化膿薬品ニ緩和スル者ト刺戟スル者ト區
別ス然レ大抵二品ヲ併合シ用ルナリ○若シ焮熱ノ
劇キモノハ温煖ニシテ滋潤シ緩和スル劑ノ以テ用フ
ベシ然レ凡若シ焮熱劇シカラザル者アリテコレヲ膿熟
セシメント欲セバ衝動刺戟ノ品ヲ用フベシ

消散セザル焮腫及ヒ腫瘍ハ化膿スルヲ要ス何トナレバ
固結腫或ハ寒壞疽ニ變セザラシメンガ為ナリ○又
縫シ難ノ創傷又ハ不潔ニシテ乾燥セル潰瘍ハ
此劑ヲ用テ化膿ヲ進ムベシ此ハ閉塞セル諸脈ヲ除
キ去ガ為ナリ否ラザレハ瘡ルヲナシ

但シ化膿薬品ハ淨潔ナル金刃創傷及清潔ナル
潰瘍若ハ惡性ノ硬結腫又隱伏疔口ノ二癰腫ニ
甚ダ害アリ

凡ソ膿ヲ化熟スル薬品ハ

牛羊蜜。亞謨摩厄亞丸謨

油ニ融解
スル者

牛牛密。珀埵尔利烏年

同上

牛牛密。尾尔拔奴謨

同上

蠟油

オレウム ランレヂム

瀝

蜜果

大蒜

蒸餾母

蜂蜜

獸屎

雞子黃

酪

脂膏類

○聚液藥品第十

人身各部ニ施シ諸液ヲ引キ聚ル効アル諸品ヲ

聚液劑十名ク

○其一 緩和劑コレハ諸脉管ヲ弛緩スルヲ以テノ故ニ多ク液ヲ其脉内へ保持ス

○其二 辛辣ナル刺戟劑ナリ何者皮ノ神經ヲ刺戟スル中ハ其部ニ多ク液ヲ發起ス其澄ハ刺戟スルニ繼テ終ニ皮膚層赤色ヲ現發ス所謂發泡膏及石鹼蒸溜是ナリ

○其三 生人身体體上ノ一部ニ於テ外部ヨリ壓入型スル自然的ノ空氣ヲ減少セシムル中ハ其部ニ多ク液ヲ流輸ス即乾角法是ナリ

○其四緊縛此ハ其部ノ静血脉ヲ壓止スルヲ以テ其部ニ多ク血液ヲ聚滿ス

○其五閉塞蒸氣込此ハ蒸氣ヲ發ルノ脉管ヲ閉塞スル中ハ其蒸氣發スル処ノ液ヲ其部ニ留儲スルナリ則チ腫瘍ニ脂膏及粘着ノ劑ヲ附貼スル中ハ其腫瘍ヲ增長スルガ如シ

○其六 摩擦法此ハ其萎縮セル脉管ヲ摩蕩スルハ其部ニ多ク液ヲ流輸スルニ因テ脉管ヲ廣闊ス
○其七 潰瘍法此ハ術ニ因テ膿潰セシムルナリ即チ串線法發泡法等ノ如シ

此劑ハ乾燥或ハ枯瘦或ハ不遂ノ部ニ施シ効見ナリ
○反列奴斯曰小兒ノ「レカラニヒユルレシ」病名ニ細キ鞭ヲ以テ其尻ヲ打チ且ツ諸膏ヲ貼メ不日ニ治シタリト ○ヒルダニユス曰ク老人ノ足部骨傷ニ日ニ緩和ト芳香トノ軟膏ヲ合セ塗セテ治シタリ ○又大ニ潰膿セントスル嫩衝ニ此劑ヲ用フルナリ ○殊ニ容易ニ消散セントスル排毒諸瘍及ヒ病毒ヲ漏泄スル処ノ潰瘍ハ此劑ヲ必用トス ○又乳汁楚因ニ効アリ

古人ハコレヲ磁石、鐵ヲ吸フ如ク毒ヲ引出スヤト謂

（リ）○故ニ聚液ノ軟硬ニ膏ヲ毒ヲ抜キ忖ニカ為ニ
疫毒腫及「子」ゲンヲ「子」ゲン若ハ又壯健ノ部分ニ敷
貼セシメタリ○然レ此劑ニ其効アル「ハ」今ニ至ルマデ
的實ナル効驗ヲ確定スル「ナ」レ況ヤ碎骨。錠丸。
及一切外物ヲ其創口ヨリ引出スルノ効カアル藥劑
ハ必ズナレトスルナリ」

此聚液劑ハ潰散セシメント欲スル処ノ腫瘍及勉
テ瘡サントスル処ノ創傷及潰瘍ニ甚ク害アリ

喘
乳香

鵲栗拔奴謨
芥リサ菜

芫菁

字伊列多嚕母

荨麻

胡椒

薑

○驅液藥品第十一

前ノ聚液劑ト其効績相反對スル者是即チ驅
液藥品ナリ○其主能タルヤ津液ヲ諸脈管ヨリ
驅逐シ且ツ其管中ニ交流スルヲ止ルナリ」

清涼藥品及收斂藥品ハ他ノ伴媒ヲ假ラズレテ
專テ此効アリ○何者所謂收斂劑ヲ用テ諸脈少
ク狹窄ニスル「ハ」則管中ノ諸液自ラ壓出驅散ス

又静脈中ヨリ駆逐ス○凡ソ脈管ノ天稟強壯ナル者
ハ既ニ衰弱セル脈管ノ如クニシタリニ諸液ヲ聚會
シ易カラザルナリ○此法儘ノ効ニ依テ又鼻テ脂肪
ノ動支脈ヨリ液ヲ分利シ出スヲ妨障スル、効ア
リ此ヲ以テ此割ハ焮腫ノ初起及消散セント欲ス
ル腫瘍ノ初起ニ効アリ

此割体外へ漏出スベキ処ノ病毒ヲ瀦ル処ノ腫瘍即チ
ペストボイレン及処ヲ移ス腫瘍及羅斯等或ハ硬
固ニ進ト欲スル焮腫ニ於テハ甚ク害アリ○然レ氏
好テ潰膿セント欲スル腫瘍ヲ勉テ遏防スルヲ

要スル処ノ焮腫即チ眼目焮腫咽喉焮腫痔脈ノ焮
腫等ニ必用トス

冷水

雪

寒氷

醋

玫瑰

赤葡萄酒

砒石

膽緑二砒

銀蜜陀醋

醋水

鉛糖

石灰水

○膏蝕藥品第十二

凡ソ刺戟ノ効カアリテコレヲ皮膚層貼スレバ侵蝕セシ

ムルノ削ヲ總テ腐菜ト云フ其効力ノ強弱ニ因テ四等
ニ區別ス則チ第一ハ嚙齧法西燕室亞ト謂ヒ第二ハ
粵碧斯把室加第三ハ發泡菜第四ハ浸蝕削
是ナリ

嚙齧法西燕室亞ハ皮表ニ赤色ヲ發シ焮熱ヲ起
ス程ニ刺戟スルノ削ヲ云ヒ○粵碧斯把室加
ハ表被ニ小水泡ヲ發スル程ニ刺戟スルノ削ヲ云
ヒ○發泡菜ハ表被ニ全ク水泡ヲ發セシムル程ニ
刺スルノ削ヲ云ヒ○浸蝕削ハ身体ノ柔軟及堅剛
ノ部ヲ全ク腐爛潰蝕セシムル程ニ峻烈ニ刺戟セシ

ムルノ削ヲ謂フ

凡ソ皮層ニ赤色ヲ起ス菜削ハ焮衝ヲ發セシムル
ニ用ヒ或ハ又焮衝ヲシテ更ニ增長セシメ因テ以テ速ニ
醗膿ノ機ヲ發起セシムルノ用トシ又病毒ヲ排出
セシムルト欲スル諸症ニ於テ猶ヨク其毒ヲ分利シ
漏泄セシムル為ニ用ヒ又病毒ヲ縮ル処ノ諸腫瘍
ヲ反流消散セガル為ニ用フ○又已ニ聚液削篇
ニ説ガ如ク枯瘦ノ部ニ諸液ヲ運行セシムル為ニ
用フルナリ

粵碧斯把室加ハ起赤削ト大ニ異ルヲ無ト

雖モ其効少ク強ニ故ニ外發ノ諸瘡及羅斯ノ内
陷等ヲ再ヒ發出セシムルニ用フ

發泡薬ハ大抵生粟削ト効同シ然レ氏此削ハ皮下
ニ水液ヲ聚ルノ効アルヲ以テ其部ニ水泡ヲ發シ而
メ刺破スル中ハ其皮下ニ余利シ聚メタル処ノ液ヲ池
出ス故ニ前ノ二削ヨリハ其効優レリトス又諸腫
瘍ヲ此削ニテ刺破スルト無クメ其液ヲ池出セシムル
ヨリ尚單味効能篇芫菁ノ條下ニ詳説ス

凡ソ藥品ノ活物體上ニ貼シテコレヲ透蝕スルノ効眼
下ニ顯ル者ハ自性ノ侵蝕削ナリ○其一ハ既ニ

膿熟スルヲ腐蝕セシメ及其他刀及ヲ用テ刺破スル
ト能ハサル腫瘍或ハ其瘡ヲシテ洞大ニセシメント欲
スル腫瘍ニ貼用ス○其二ハ諸般ノ贅肉或ハ死肉
或ハ腐骨ヲ腐蝕シ去ルニ使用ス○其三ハ止血
薬トシ諸創出血ヲ閉止セシガ為ニ其尿管口ニ
敷貼ス乃チ其尿管ノ上面ニ忽チ痂皮ヲ結生シ
因テ以テ其出血ノ淋漓タルヲ閉止ス○其四ハ又腐
蝕削ヲ莖痛ニ用テ鎮止ス莖蓋シ其部ノ神經ヲ
腐断シ疼痛ヲシテ感觸セサラシムルニ因テナリ
凡ソ腐蝕藥品各種アリテ各其効ヲ異ニス故ニ

各症ニ從テ其の當セル藥品ヲ撰用スルヲ要ス則チ
單味効能篇辛刺藥品ト膏薬トノ二章中ニ
詳載ス

芫青

大蓼

卫ニユラ

龍骨木脂

毛茛

換答亭撒促里亞

枯荖

赤降汞丹

白降汞丹

銅綠

膽礬

拉必速員苛兒那里私

尋常膏藥

酪狀安質没扭漢

石灰

檜栢

剥篤亞斯

綠荖精

強水

汞膏水

消石精

○復良藥品第十三

凡ソ身体諸部ノ血液ノ腐敗シ或ハ一二格別ナル酪
屬液ヲシテ舊ニ復シ或ハ其コレヲ腐敗セシムルノ機
ヲ全ク遏止スル効アル藥品ヲ復良劑ト名ク又此
劑中專ラ腐敗ヲ防止スル藥品ヲ防腐藥品ト
名ク

血液腐敗或ハ沸騰スル片ハ体中、諸液及諸器ヲ
 溶解弛緩シ一種ノ惡臭ニ變セシム故ニ諸液ノ
 溶解及諸器ノ弛緩ヲ防止シ及諸液ノ沸騰ヲ
 製伏スル処ノ劑即チ腐敗ヲ防止スルナリ此故ニ
 酸收劑。澁斂劑。苦味藥品。按爾撒漢質藥品
 ヲコレニ屬ス○然レ茲ニ一種ノ奇藥アリ即チ解熱
 皮ナリ世人解熱^皮熱ヲ解スルヲ知レ凡腐敗ヲ防
 止スルノ本性ナルヲ知ラズ
 所謂解熱皮ハ帝ニ腐敗ヲ遏防スルノミナラズ
 已ニ腐敗シタル者ヲ良善ニ挽回スルノ効アリ尚

洋ニ單味功能篇亭露非亞厄皮ノ條ニ流ク
 寒壞疽腐骨疽及諸般ノ腐敗セル膿潰腫起
 ノ二瘍等ニ此藥品ヲ應用ス
 又諸液ノ變壞スル各異ノ質ニ從テ良善ニスル
 各種ノ藥劑アリ即チ失苟兒倍苦ノ酷厲ハ失
 苟兒倍苦ヲ療スル劑ヲ以テシ徽毒質ノ諸症及
 蝮蛇咬風狂犬咬傷ハ水銀ヲ以テシ癌質ノ酷厲
 ハ芥葉鈎吻等ヲ以テスルナリ尚洋ニ單味功能
 水銀芥葉^{鈎吻}條ニ載ス
 前ニ説ク各種ノ藥劑ニ因テ各異ノ病毒アルガ

腫瘍及潰瘍ヲ治スルコトヲ得ベシ尚其他ノ藥品ヲ
以テ往々治スルコトアリト雖モ的實ナラス

字露非亞尼皮

樟腦

礪破

斯古兒需年

摩兒嚕鋪年

芸香

撒尔費亞

芥葉鈎吻

醋

海鹽精

燒酒

的兒並底那精

沒藥

膽綠二礬

礬石

○滌除藥品第十四

滌除藥品ハ金創潰瘍ノ汚穢ヲ滌除スルノ効アル
藥品ノ謂ナリ○金創潰瘍ハ大抵外入ノ諸物及凝
血アルニ因テ適宜ニ附着スルコトナレ故ニ温メタル葡
萄酒或ハ水ニ鹽ヲ加ヘタル者ヲ以テ清掃淋洗ス
ルヲ西ヤス

然レモ潰瘍ハ汚穢ヲナスノ物種々般々ニシテ一定
シ難シ○其外面ニ在テ汚穢ヲ為ス者ハ常ニ膏
リタル脈管及稠膿脂質白色ナル皮膚ノ如ク
掩蓋復附着スルナリ所謂不潔ノ皮膚ハ鹽質

苦味。拔尔撒摩質。石鹼質。緩輕ニ刺戟スル等
、渚品ヲ以テ容易ニ滌除シ去ルベシ

然レ凡潰瘍甚ダシク爛レテ脂膏膏肉ノ如ク或ハ
腫ク如クナレバ潰瘍ニ贅肉ヲ盈タルニ必用トスル処
ノ緩和ナル膏蝕劑ヲ以テ此ヲ潰滌スベシ又潰瘍
汚穢ニシテ良膿ヲ造化スルヲ能ハサル者ハ化膿
藥品ヲ用フベシ往古ノ外科此症ニ化膿藥品ヲ活
用スル効能ヲ「ヂゲスチハ」ト名ク
夫苟兎陪苦疥癬梅毒。癰毒。毒。毒。寒。壞
疽。腐。骨。疽。ソウテケルフテ」等、酷厲毒ニ因テ

癸スル諸瘍ハ各其適當ノ藥品ヲ内服外用シテ
毒ヲ掃淨滌除スルヲ所要トス其滌劑ハ復良
劑及各異効能篇ニ於テ此ヲ説トス
此篇論説スル処ノ理ヲ以テ推考スレバ渚劑潰瘍
若ハ愈劑欠ヲ与フベキカ若ハ他ノ渚劑的當セ
カト云フ理會スベシ

- 玫瑰蜜
- 龍芽草
- 摩兒魯鋪牟
- 小連翹
- 濱瞿主文
- 常春藤
- 亞兒利亞里亞

白蒿

青蒿

斯古兒需午

ホレイ

獸膽

鹽類

沙糖

勿搦祭亞石鱗

鑛泉

李露非亞尼皮

芸香

蓬砂

没菜

層會

拔尔撒摩。格泔霍

拔尔撒摩。李露非亞尼

拔尔撒摩手。メツカ

的尔並底那

蕪合香

銅綠

枯礬

○愈創藥品八第十五

凡ソ創痍潰瘍ヲシテ愈スヲ進ムルノ劑ヲ愈創
藥品ト謂フ

往古ノ瘍醫ハ肉ヲ作ルサ藥アリト思ヒ其藥ヲサル
コチカト名ケタリ此ハスベテ自然ノ拔尔拔誤類
ナリ○凡ソ創瘍ヲ瘥ス劑トイヘ氏コレヲ死者ノ創
傷ニ施スニ絶テ愈スヲナク又諸ノ創瘍瘥劑

ヲ用ヒスト雖モ自然ノ良能ニ因テ治スル者アルヲ見レ
 バ草ニ自然ノカニヨツテ愈ルヲ知レシ
 然レモ拔尔撒謨類ハ身体ノ腐敗ヲ防キ創傷ノ大
 空氣ニヨツテ乾燥スルヲ保護ス又少ク刺戟スル
 ノ効アルニヨツテ其部ニ有用ノ渚液ヲ誘導シ膿
 潰ヲ防止シ且ツ纖維ヲ和柔ス故ニ又自然ノ良
 能ヲ助クルノ効ナキニシモ非ルナリ
 諸創傷潰瘍ヲ全ク浄掃メ良膿ヲ持来ル片ハ
 自然ニ瘡ルヲ以テ滌除削モ又癒創藥品ト名
 クベキナリ

此故ニ諸創ノ汚物ナキハ拔尔撒謨ノ愈創水
 ヲ用フベシ又強ク潰膿セントスル片ハ此ニ乾燥品
 品ヲ加フベシ膿ヲ醸スナキモノハ脂膏類ヲ加ヘタル
 拔尔撒謨 拔尔撒謨亞
尔葛亞意ルイ ヲ用フベシ腐肉アル者ハ滌
 除削ヲ加ヘタル拔尔撒謨ヲ用フベシ如此スレバ諸創
 愈々易シ

拔尔撒謨。格海霍 。謨 鵠剥拔尔撒謨

拔尔撒謨。李露非亞尼 没藥
 的列並底那

廬會 燒酒

愈瘡水

拔尔撒謬謨亞尔葛亞意

○結痂藥品第十六

諸創傷潰瘍ノ痂皮ヲ結生セシムル力ヲ助ルノ劑ヲ
結痂藥品ト名ク

凡ソ痂皮ヲ生スルハ自然ノ良能ニ因テ脉管ヲ牽
縮乾燥シ外皮ヲ西復ニ因ルナリ其自然ノ力ヲ助
ケ速ナラシムルノ劑ヲ造痂藥品トナス

其効能アルノ藥品ハ土質ノ粉末劑強ク浸漬ス
ルノ劑粘着劑乾燥綿撒絲。礬石製綿撒絲及
諸乾燥劑等ノ如シ

右ノ諸劑ハ諸創傷潰瘍ノ已ニ瘡ノ雖モ未タ痂ヲ結
バサル者ニ施スベシ又潰瘍經久ナル者ハ假令平
等ナラザル皮ヲ生セスト雖モ乾燥劑ニ因テ痂ヲ生
ズベシ

綿撒絲

枯礬石

珊瑚石

去低亞

鉛糖

鉛丹

銀蜜陀僧

鉛粉

燒酒

愈瘡水

○溫暖藥品第十七

人身各部ニ施シ其部ヲ温ムル諸薬コレヲ温薬ト
名ク

温煖ニシタル綿布又ハ温湯及如此モノ寒ノ涼ノ部
ヲシテ温煖ナラシム然レモ又温煖ヲ各部ニ達セシム
ルハ尚別ニ一法アリ即チ温煖ナル者ニ衝動劑ヲ
加ルナリ

辛味薬品。侵蝕薬品。香竄類。脂膏類。ナリ
右ノ諸劑各部ニ於テ衝動及催熱ノ効アリ○又
コレニ真假ノ別アリ

其ノ真ナル者ハ諸脉及纖維ヲ緩知シ諸液ヲ稀

薄温煖ニシ且ツ活潑流動セシム故ニ又消散薬品
ト称メ可ナリ

然レモ此薬品諸液ヲシテ過度ニ運動セシメ腐敗ヲ
速ニスルカ故ニ焮腫又ハ凍傷ノ部及寒壞疽等
ニハ甚ダ害アリ

○其假ナル者ハ諸液ノ送輸ヲ増益シ且ツ其運動
ヲ急速ニシ以テ其部ヲ温暖ニシ而メ赤色ヲ發セシ
ム故ニ焮熱ナキ症ニ用フベシ其諸症ハ麻痺寒腫
及寒潰瘍等ノ如シ○又神経衰弱メ知覺ヲ
失フニヨツテ寒壞疽ニハ温熱ナル甚ダ刺衝スル

蒸ニテ用フベシ

温湯

ヒユニガナカ

樟腦

没薬

杜松脂

燒酒

硝砂精

芥子

苧苧麻 摩擦

海葱

辛味香竄品類

○清涼薬品 第十八

人身各等ニ清涼ヲ覺ヘシメ或ハ諸部ヲ清涼ニスル
諸薬ヲ清涼薬及清熱薬ト名ク

盖シ清涼薬品ニ真假ノ區別アリ

○其ノ真ノ清涼劑ハ冷水。雪。氷及其他寒冷ナル
諸品ヲ属ス

○其假清冷却ハ鉛製薬少シク收斂スル劑。亞
鉛製劑等ナリ此劑ハ其部ヲシテ寒ニ冷ナラシムル
ヲ以テ焮熱アル腫痛ノ症ニ施シテ効アリ

右ノ諸薬焮熱ニ因テ諸液ヲ聚會シ或ハ沸騰令メ
或ハ疼痛ヲ起シ或ハ神經ヲメ困難ナラシムル
等ヲ鎮止スルノ効アリ猶和力ニ收斂スル諸劑ト
其効ヲ同フス

冷水

雪

鉛粉

酥

確砂

阿勃勒髓

氷

銀蜜陀醋

雞子白

消石

醋水

○融解藥品第十九

粘稠ノ液ヲ稀釋スル藥品ヲ云フ

蓋シ融解藥品ハ一定セズ故ニ良醫ハ液ノ稠厚ヲ
為スニ甚ク區別アルヲ以テ先ヅ液ニテ稠厚ト為ス

起原ヲ治スルコレ融解藥品ナリ

水漿類。石鹼質。酸味藥品。鹽類。灰汁。鹽類。

苦味類。香臭類。辛味藥品。葶爾蘇多類。精

氣多キ藥品及金石類等ノ渚品ナリ

右ノ内衝動ノ効ヲ兼ルモノアリ又氣カル者アリ○

又コレニ酷烈ト温和トアリ寒性ト熱性トアリ右

分別ヲ甚ク緊要トス煖熱ニ温和ナル融解藥品

ヲ用ヒ寒性ニ酷烈ナル融解劑ヲ用フニ且ツ右

類スル諸病タトヘバ膜腫ノ如キハ酷厚或ハ法尔

斯多質ノ消散劑ヲ用フ

腫瘍ヲ消散スル処ノ諸劑ハ皆粘稠ヲ稀薄ニスル
 効能アリト思フヲ勿レ燒酒礬石及其他ノ諸劑
 脈絡ノ衰弱ヨリ起ルト口ノ諸腫ヲ治スルガ故ナリ
 右ノ劑ハ液ヲ稠厚ニスルノ効ヲ兼ルヲ以テ融和藥
 ニ非スト雖モ此故ニ諸液ヲ融解スル処ノ効アル藥
 之ヲ真ノ消散劑ト名ク

微温湯

葡萄酒

濱聖麥

山藍

赤豆使者

加役密刺

接骨木

芹葉鉤吻

- | | |
|--------|------------|
| 青蒿 | 草零陵香 |
| 白蒿 | 斯古兒需年 |
| 亞兒利亞里亞 | 薄荷 |
| 拘櫟草 | 茱玉刺那 |
| 撒甫費亞 | 迷迭香 |
| 羅勒 | 蜂蜜 |
| 醋 | 石鹼 |
| 水銀 | 硫黃 |
| 消石 | 蓬砂 |
| 礪砂 | 牛牟密亞漢摩尼亞九漢 |

珀埵尔利烏謨

厄尔拔奴謨

撒瓦伯肉午

樟腦

牛午密遠列密

究羅溺蛤

礬石

白屈菜

鵝列阿溺亞

穀類麩粉

○奇異藥品第二十

諸疾患ニ施シ其効アル所以ノ理精西敷ナラズト
雖モ各疾ニ施シ各異ノ効能アル諸薬ヲ此篇
ニ萃ク

吾儕各自異能アルノ理ヲ知ラズト雖モ各病其主

ノ性各一ナラサルヲ明ナリ故ニ又諸藥品ニ區異ノ
効アルヲ

單味効能篇ニ單味ノ効ヲ逐一ニ説明スト雖モ
今此ニ各異ノ病ニ用テ各種ノ能アルヲ載ス

治癌腫薬 アチチカン
コロサ 隱伏用口ノ二癌ヲ論セス

膏敷液ノ酷烈ヲ治スル薬ヲ溜フ即チ

芥葉鈎吻 荳蔻

黑石筆 ブリュムバゴ

オノベルトン 石灰水

○水綿様ノ癌腫ニ一種ノ奇薬アリ

佛甲草

○治失音見倍苦菜 凡ツ失音見倍苦實ノ潰瘍
膏敷液ハ左ノ草ヲ杵汁ヲ良トス

山萮菜

碎米菜

水蒿苣

睡菜

沙蘿菘

蘿菘

枸櫞汁

橙汁

石灰水

膽蓉水

○治黴毒 凡ツ黴毒ヲ治スルハ水銀ヲ最ニ第
一トス然レモ又次ノ草モ効アリ

剥窟福烏篤

大蓼

撒而沙扒栗刺

ロベリア

參減刺

諸灰汁塩製ノ削ハ黴毒ノ酷烈液ニ用テ害アリ

○遏止膏敷草 凡ツ膏敷ヲ防キ殊ニ寒ノ壞疽

ニ効アリ

字露非亞尼皮

的列並底那精

碯砂

○治療瘰癧 腺腫ノ瘰癧ハ次ノ草ヲ良トス
芥葉鈎吻 勿搗祭亞石鱗

石灰水

酒石油

亭露非亞泥皮

龍膽

水銀

アノチオヒスニ子ヲリス

硫黃

貌列阿溺亞

○治疥癬藥

疥癬ヲ治スル藥ハ

硫黃

白汞丹

赤汞丹

礬砂

淡巴姑

藜蘆

○治頭瘡藥

佛甲草

○治蛇咬藥

次ノ藥品蛇咬毒ニ極甚言ス

龍膽

蕤護汞

河利穢油

○水銀 狂犬毒ニモ亦効アリ

○治癩腫藥

癩腫ヲ治スルニ内服ニハ消石ヲ用

ヒ外敷ニハ

諸鉛製劑

○治膿創藥

創傷膿潰レ腐敗スルヲ治スルニ

諸灰汁鹽劑ヲ稱譽ス殊ニ

葡萄藤ノ灰汁鹽

○治神經創傷藥

拔尔撒謨。印茅究膜

的列並底那油

○治眼疾藥

皓岩

亞鉛

薔薇露

伊吹小米草

去低亞

蛇膏

○止血藥

內服ハ機那ヲ主トス又酸收鹽ヲ佳

トス第二編ニ洋浣ス外用ハ

落葉松寄生

馬勃

○治腐骨藥

的列並底那精

燒酒

乳香

龍骨木脂

檜栢

骨傷及腐骨ニ「カロリス」ヲ生スル為ニ「ベニレ」ト
名ク一種ノ藥品ヲ用フ此ハ乳汁ヲ増益スル為メニ
ラクリス或ハ石英ヲ用ルト同理ニメ妄説ナリトス

○殺虫藥

此ハ創傷潰瘍中ノ虫ヲ殺ス

的列並底那精

燒酒

甘汞丹

蘆會

○殺虱藥品

淡巴姑

塞縣撒拔施再利

水銀

○拔毛藥。コレハ毛髮ヲ拔キ去ントスル中ニ用ルノ

薬ナリ

石灰

苗礬石

毛茛

瀝膏ハ毛髮ヲ其根ヨリ拔ク為ニ用フ

○咒薬 此ハ直ニ疾患ニ對セス又身体ニ術ヲ施ス

ナクシテ効ヲ奏スルノ薬ナリタトハ疣ヲ取り去リガ

為ニ其傷器ニ「セイムバシケ」丹毒末ヲ撒シ或ハ鵝溜
ニ枯骨ヲ貼スル等ノ如シ○右ノ諸法一二効ヲ奏ス
ル者アリト雖モ己ニ先輩ノ講明論著スルガ如ク
大概人ヲ欺クノ事淡ニ取ルニ足ラズ尚緑苔ヒニ
キエト、及ビ血石、條下ヲ参考スベシ

